

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県】

1 実践テーマ	【 II 】
2 実施対象者	石巻市立貞山小学校 第6学年1組 40名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他(総合的な学習の時間「おもてなし講座」)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	世界各国の人々と互いのよさを認め合いながら関り、さらに日本の文化や慣習のよさについても誇りに感じながら生活できるよう「おもてなしの心」を学ぶ。
5 取組内容	<p>○ おもてなし講座 [H30. 7. 17]</p> <p>筑波大学客員教授(元日本航空客室乗務員) 江上いずみ先生をお招きし、おもてなしの心構えと作法について教えていただいた。</p> <p>(1) グローバルマナーとおもてなしの心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おもてなしとは「相手に喜んでもらうために心を尽くすこと」 ・ 表情、態度、身だしなみ等は3～5秒で理解される。 ・ あいさつは、『分離礼』が望ましい。 <p>耳が聞こえない人は、口の動きで話していることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 握手は、上位者、年長者が先に手を出す。女性が手を出すまでは、男性からは出さない。 ・ ノックは3回以上が国際標準である。 <p>(2) 客室乗務員の仕事をとおして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 100人の乗務員がいて、1人がお客に不快な思いをさせると他の99人も同じように思われる。100-1=0になってしまう。その「1」にはならないようにしなければならない。 ・ 「気付き」と「言葉掛け」が大切。常に対応と共にプラスαの心遣いが必要。 <p>・ 「お願いします」「ありがとう」日本人は不得意に見える。</p>



	
<p>6 主な成果</p>	<p>(1) 児童は、東京オリンピック・パラリンピックには、たくさんの外国の方がいらっしゃることを改めて認識し、日本のよさをどのように伝えていけばよいか、知ることができた。</p> <p>(2) おもてなしの心や接遇、国際的なマナーについて具体的に教えていただいたことで、児童は普段の自分の生活態度を振り返り、改めていかなければと感じていた。</p> <p>(3) 大切な存在として接していただくことよさを感じ、自分も江上先生のように、心遣いと笑顔で友達に接していきたいと考える子が多かった。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>(1) 思春期の入り口で、家族や友達等身近な人に対して、なかなか素直な態度をとることが難しくなってきた第6学年児童を対象にお話していただいた。</p> <p>(2) 90分間(2コマ)の時間で、お話していただいた。講義だけでなく、簡単な体験活動も取り入れていただいたことが児童にとって理解しやすかったようだ。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>(1) 江上先生のお話は、保護者等にも聞いてもらいたい内容だった。講演会の持ち方をより工夫していきたい。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>(1) 機会があれば、おもてなし講座を児童・保護者対象に引き続き実施していきたい。</p>